

令和7年12月

令和7年 10月 ~ 12月期 実績
令和8年 1月 ~ 3月期 見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 過去10年間	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

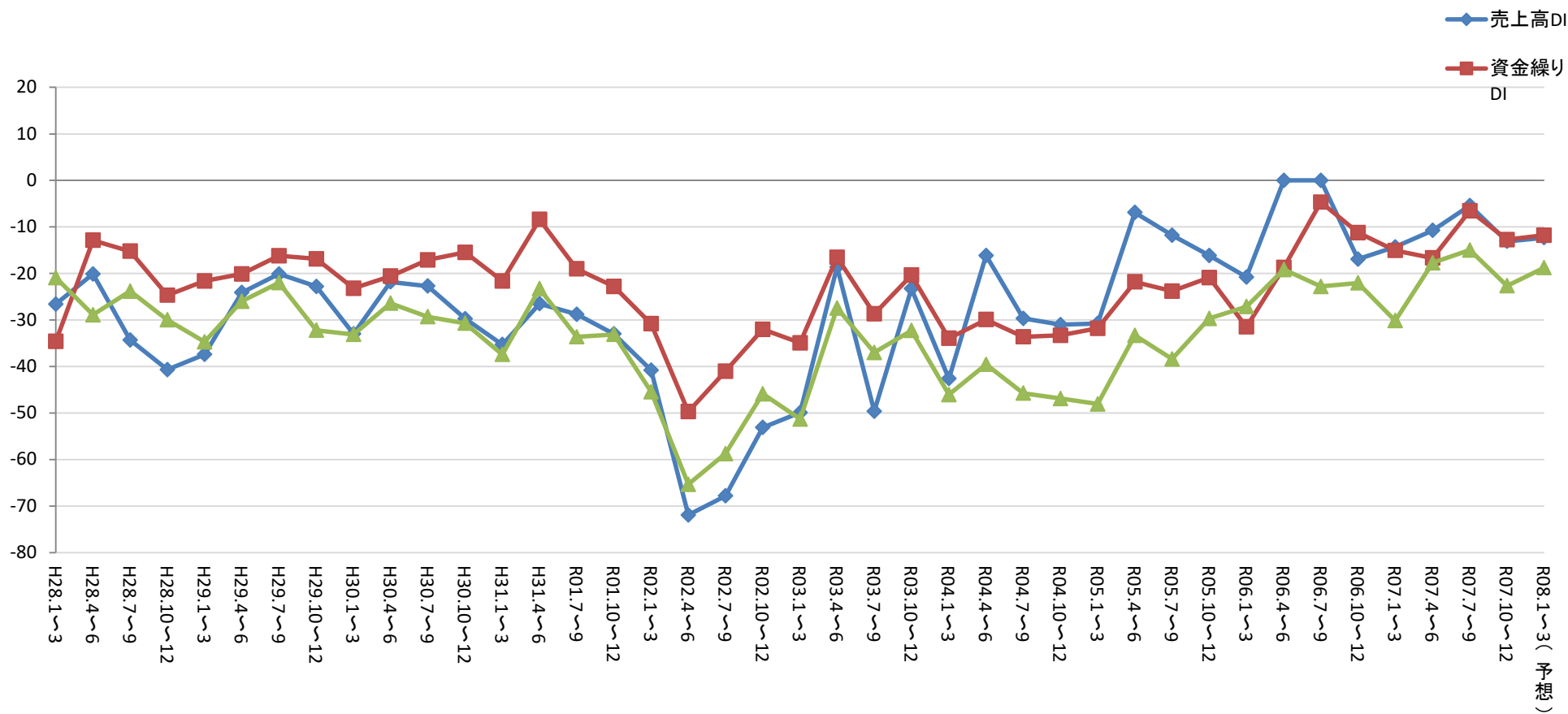
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き —前年同期比—



業 況 天 気 図

業 種	期 間								
	令和6年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和7年 1～3月	4～6月	7～9月	(今期) 10～12月	(見通し) 令和8年 1～3月
製 造 業	 曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇
建 設 業	 曇	 晴	 薄曇	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄曇
小 売 業	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 薄曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 曇

売上高DI	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

建設業を除く3業種で売上高D・Iが低下 サービス業、小売業が大幅に低下

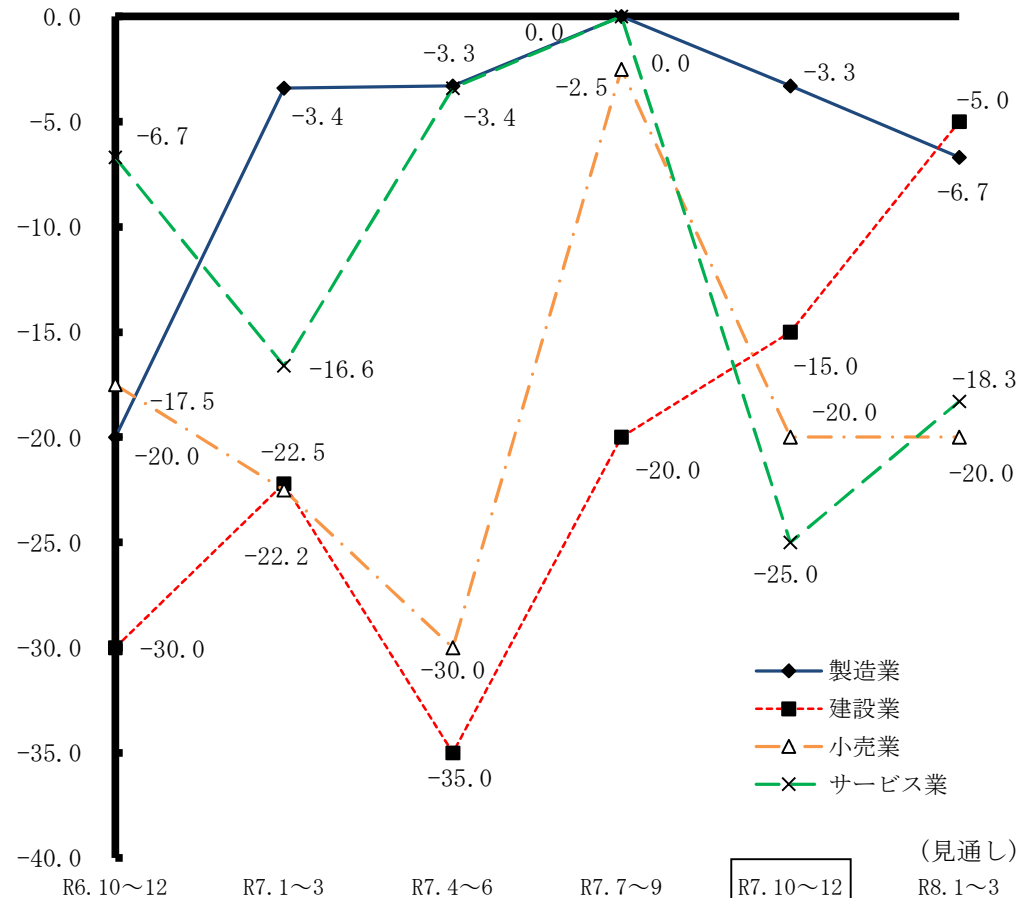
今期の売上高D・Iは、建設業を除く3業種において低下となりました。他方、建設業は2期連続の上昇となりました。

3期連続の上昇により売上高D・Iがゼロまで改善していた製造業は僅かながら低下、サービス業、小売業の2業種は大幅な低下となりました。建設業のみが2期連続の上昇となりマイナス幅を縮小しています。

製造業は3.3ポイントの低下して△3.3、小売業は17.5ポイント低下して△20.0まで悪化、サービス業も25.0ポイントの大幅な低下により△25.0まで悪化しました。建設業のみが5.0ポイントの上昇により△15.0まで改善しています。

来期は、製造業が2期連続の低下によりマイナス幅を拡大するものの、小売業が今期と横ばい、他方、建設業は3期連続の上昇、サービス業も上昇に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採算

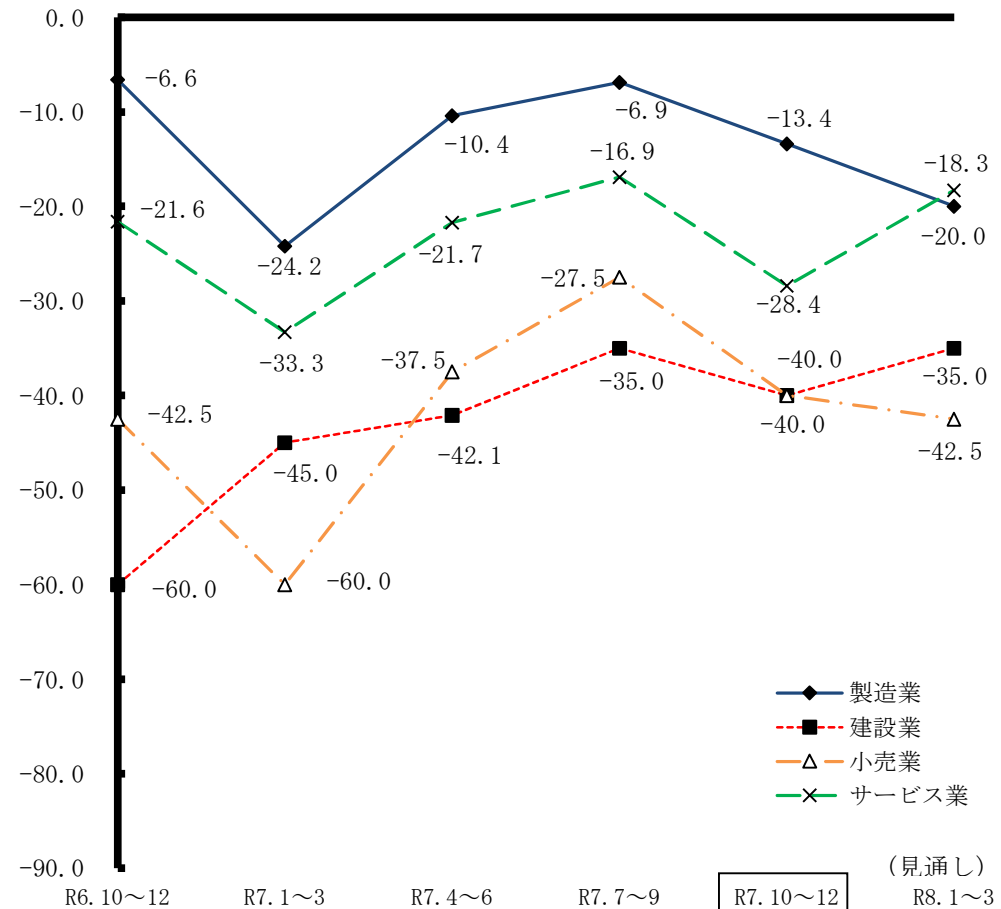
**全業種において採算D・Iが悪化
小売業、サービス業は二桁台の悪化**

今期の採算D・Iは、全業種が悪化となりました。2期連続して改善基調にあった製造業、サービス業、小売業が悪化に転じ、3期連続して改善していた建設業も悪化に転じました。

製造業は6.5ポイントの低下より△13.4まで悪化、サービス業は11.5ポイントの低下により△28.4まで悪化、小売業も12.5ポイントの低下により△40.0までマイナス幅を拡大、建設業も5.0ポイント低下して△40.0までマイナス幅を拡大しています。

来期は、製造業と小売業が今期に引続き悪化基調となることが予想されるものの、サービス業、建設業の2業種は改善に転じるものと見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

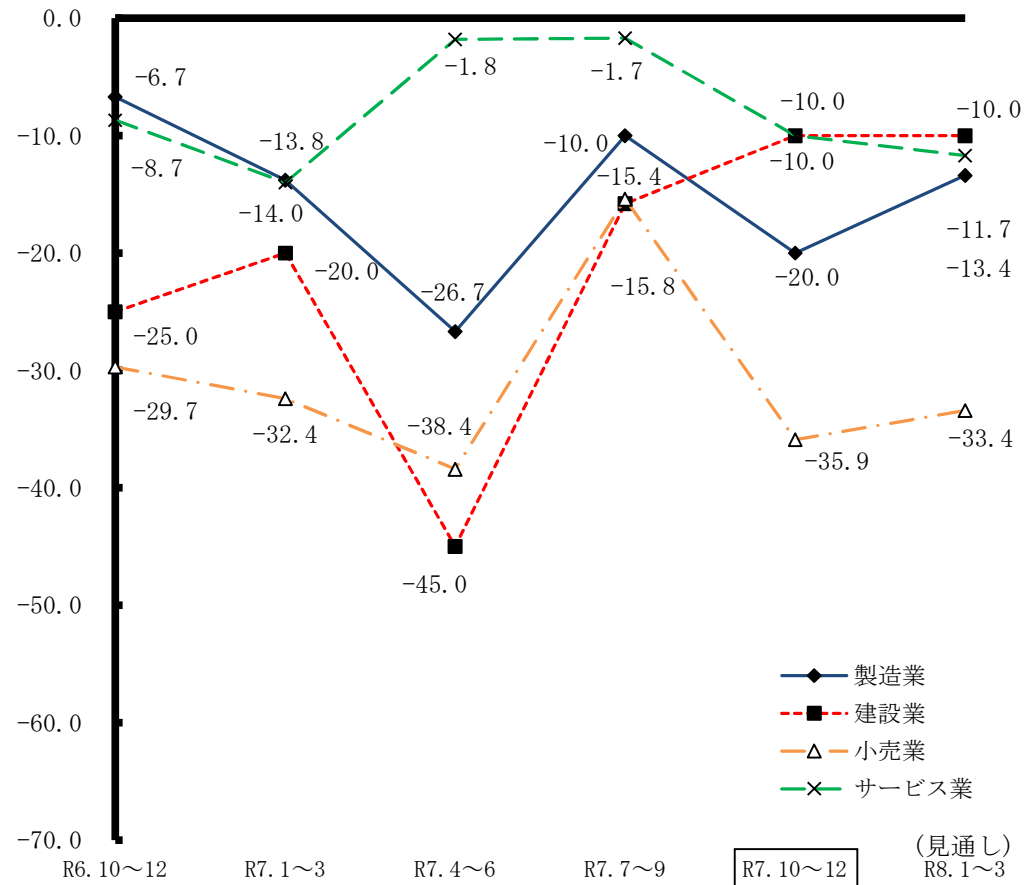
資金繰り

建設業を除く3業種において資金繰りが悪化 小売業は大幅な悪化

前期大幅に改善していた製造業、小売業の2業種において資金繰りD・Iが悪化に転じたほか、サービス業も悪化となりました。建設業のみが2期連続して上昇し、改善基調となっています。

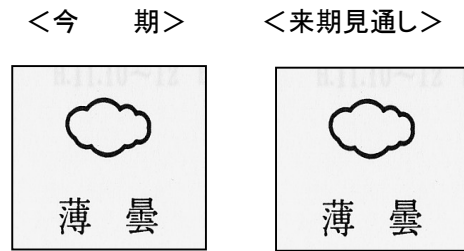
前期大幅に上昇していた製造業が10.0ポイントの低下により△20.0まで悪化、同じく前期大幅に改善していた小売業も20.5ポイントの大幅な低下により△35.9までマイナス幅を拡大、サービス業は8.3ポイント低下して△10.0まで悪化しました。他方、建設業のみが2期連続の上昇となり、5.8ポイントの上昇により△10.0までマイナス幅を縮小しています。

来期は2期連続の改善基調にあった建設業は今期と横ばい、サービス業は僅かながら低下することが見込まれるものの、製造業と小売業は改善に転じるものと見込まれています。



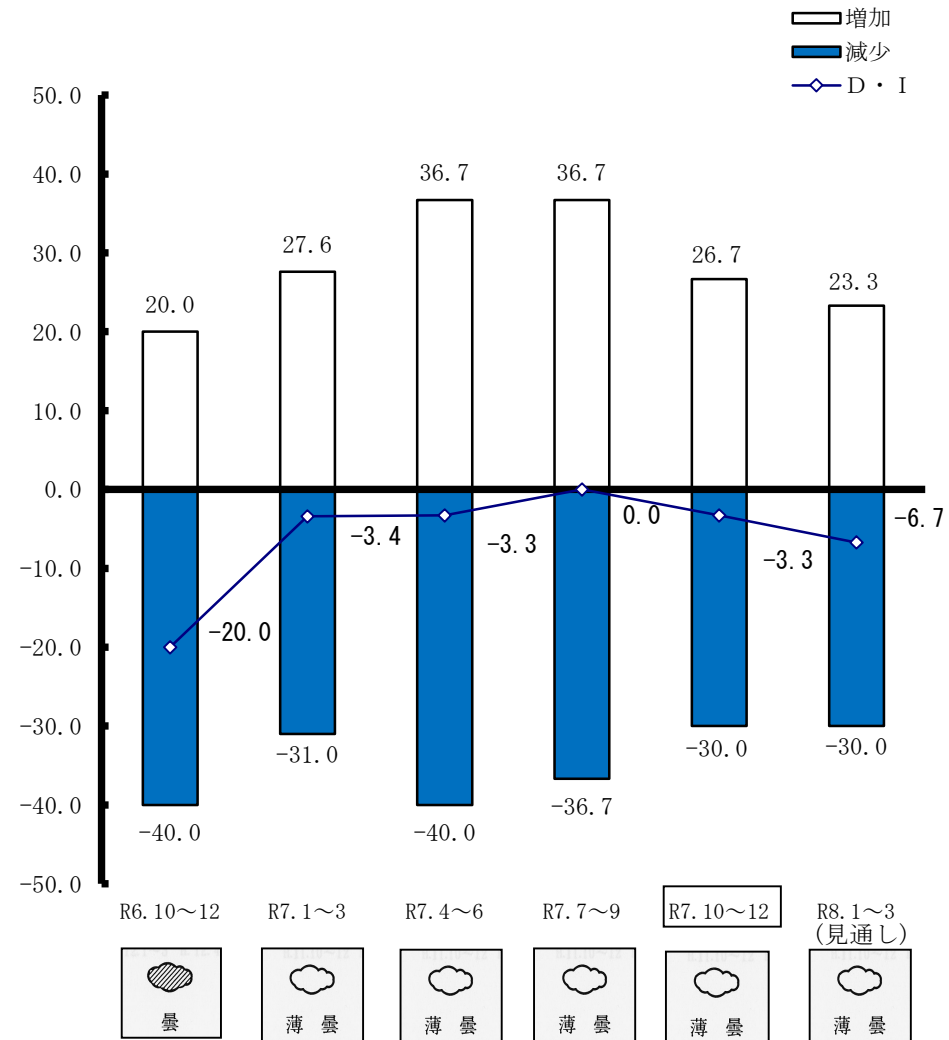
製造業の推移

売上高

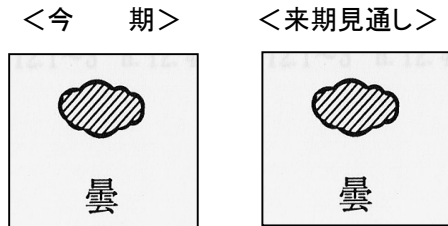


今期は、売上高増加企業の割合と売上高減少企業の割合がともに減少したものの、売上高増加企業の割合が10.0ポイント減少したのに対し、売上高減少企業の割合の減少幅が6.7ポイントだったことにより売上高D・Iは3.3ポイント低下して△3.3となりました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が更に減少し、売上高の減少を予想する企業の割合が今期と横ばいとなることから、売上高D・Iは今期に引続き低下する見通しです。

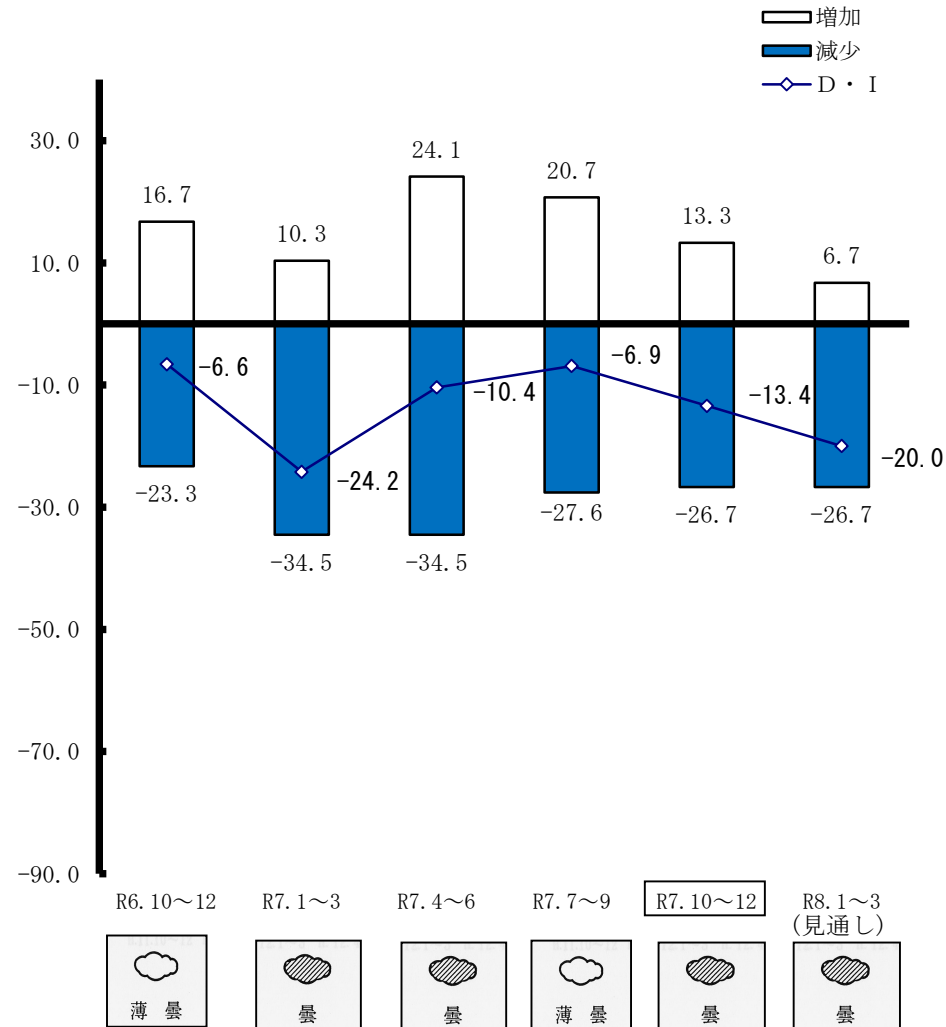


採算



今期は、採算が改善した企業の割合が7.4ポイント減少し、他方、採算が悪化した企業の割合も減少したものの減少幅が0.9ポイントにとどまったことにより採算D・Iは6.5ポイント低下して△13.4まで悪化しています。

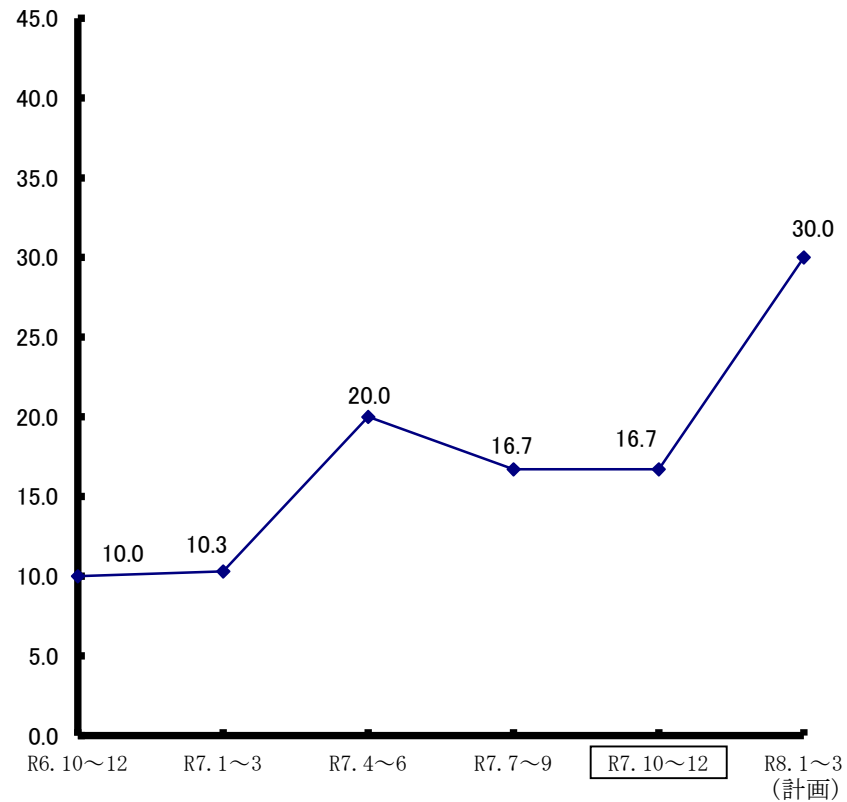
来期は、採算の改善を予想する企業が今期に引続き低下し、採算の悪化を予想する企業が今期と横ばいにとどまることから、採算D・Iは今期に引続き低下する見通しです。



設備投資

製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期と横ばいの16.7にとどまっています。

来期は、設備投資の実施を予定する企業数の割合が13.3ポイント増加し、設備投資実施予定企業の割合は30.0まで上昇する見通しとなっています。



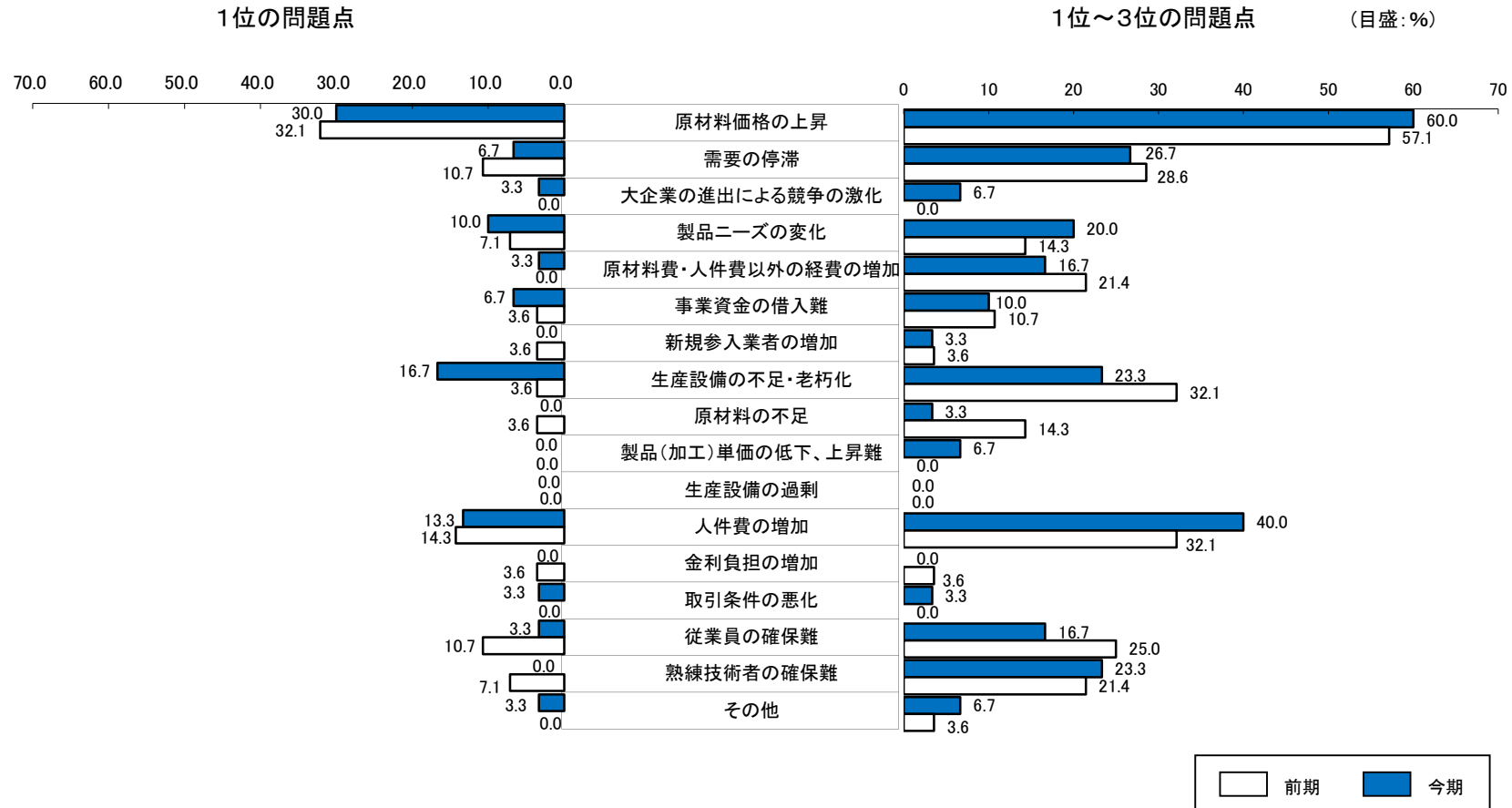
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

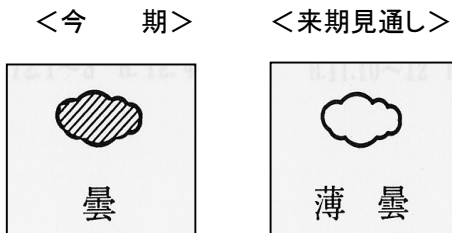
岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

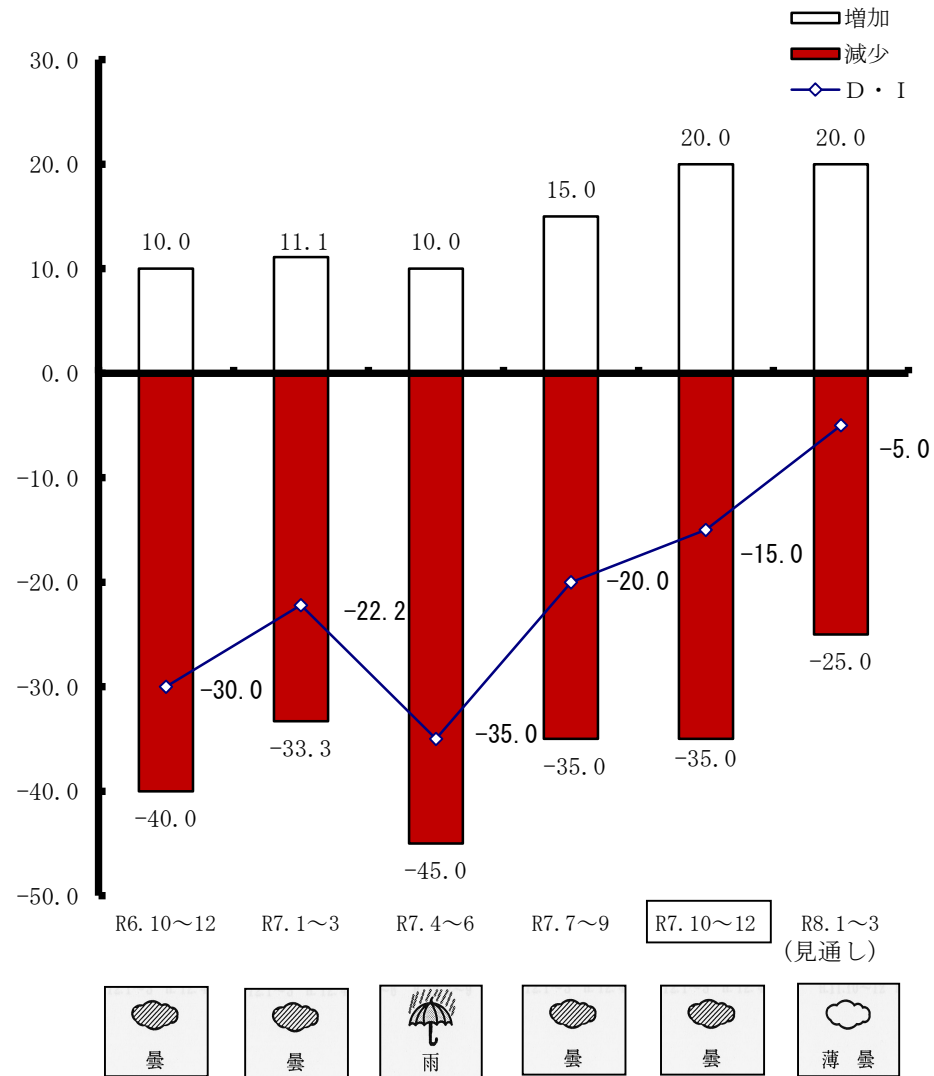
売上高



前期上昇に転じていた建設業の売上高D・Iは、今期も引き続き上昇となりました。今期売上高が増加した企業割合は5.0ポイント増加し、売上高が減少した企業割合は前期と横ばいとなったため、売上高D・Iは5.0ポイント上昇して△15.0まで改善しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期と横ばいとどまるものの、売上高の減少を予想する企業の減少幅が大きいことから、売上高D・Iは今期に引き続き上昇し、マイナス幅を一桁台にまで縮小することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

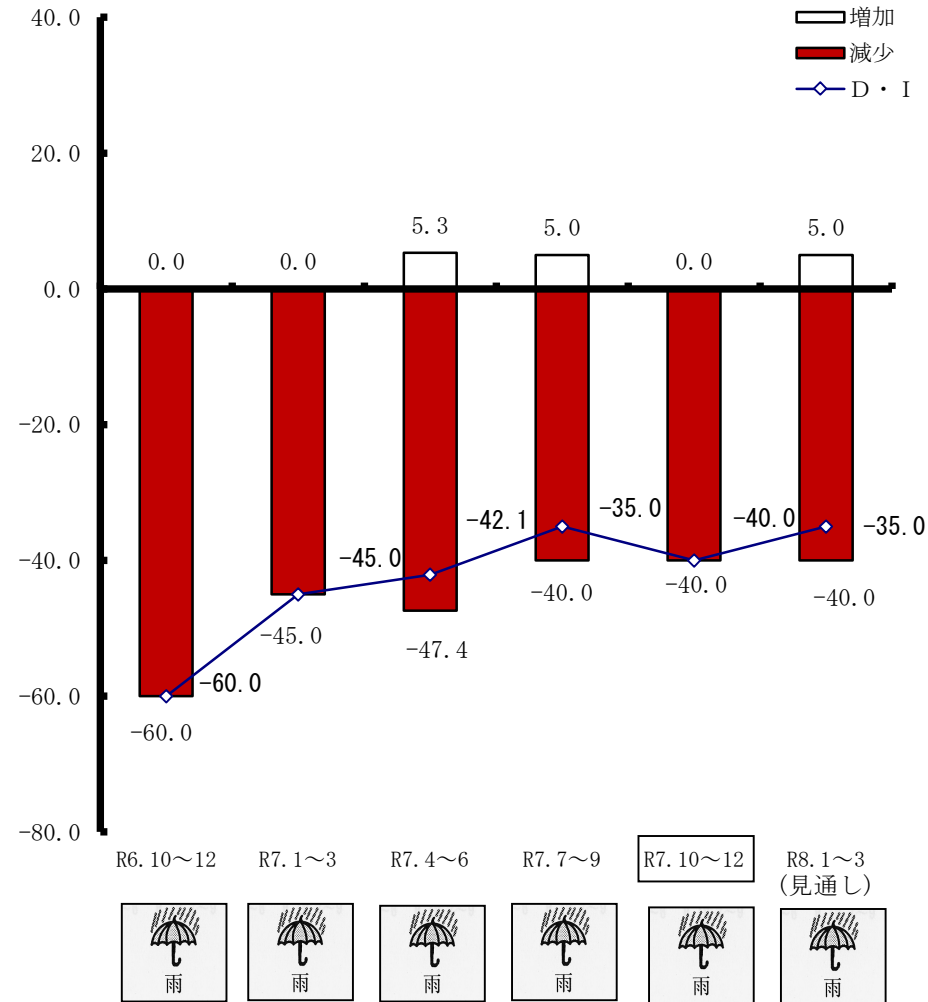


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合がゼロまで減少した一方、採算が悪化した企業の割合が前期と横ばいにとどまったことから、採算D・Iは5.0ポイント低下して△40.0までマイナス幅を拡大して低迷しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が小幅に増加し、採算の悪化を予想する企業が今期と横ばいとなることから、採算D・Iは改善となるものの、依然として低いレベルにとどまる見通しとなっています。

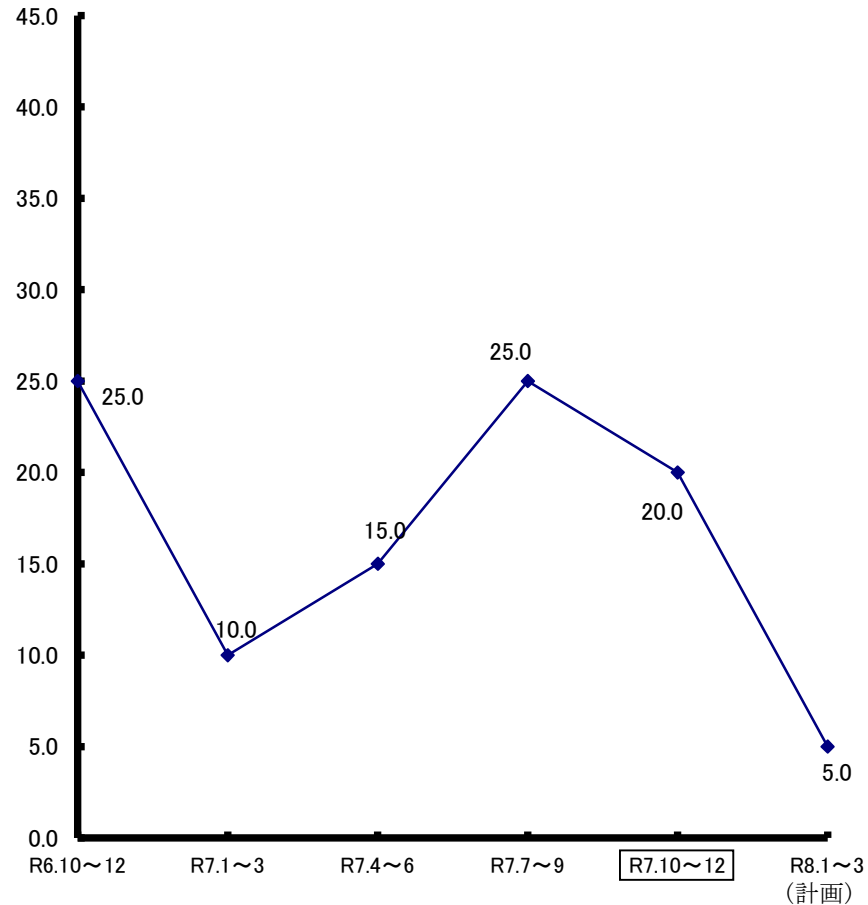


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は前期まで2期連続して増加基調にあったものの、今期は減少に転じ、5.0ポイント減少して20.0まで低下しています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期に引き続いて減少し、15.0ポイント減少して5.0程度にとどまることが予想されます。

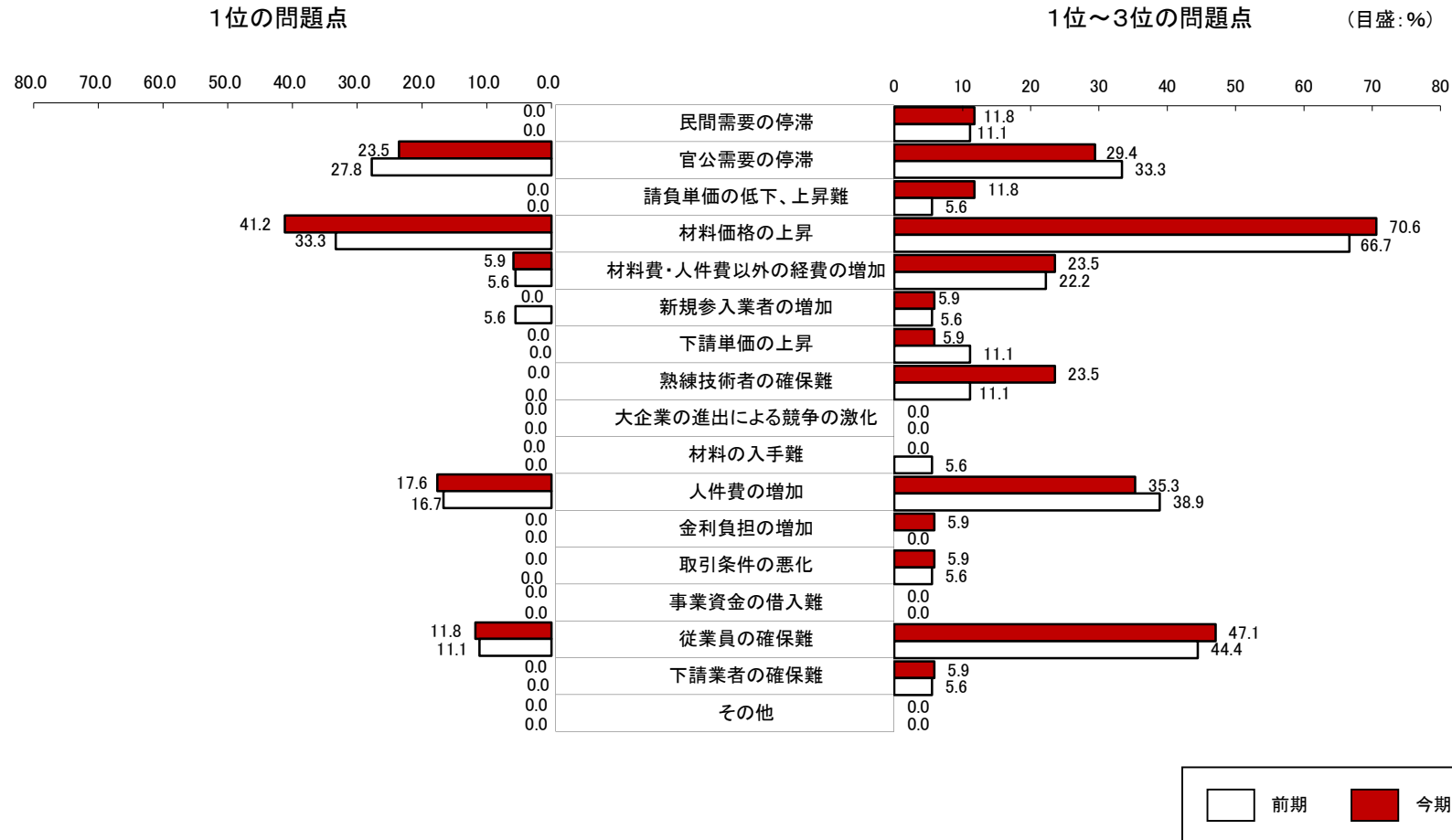
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



経営上の問題点

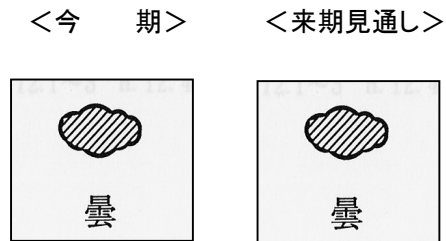
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



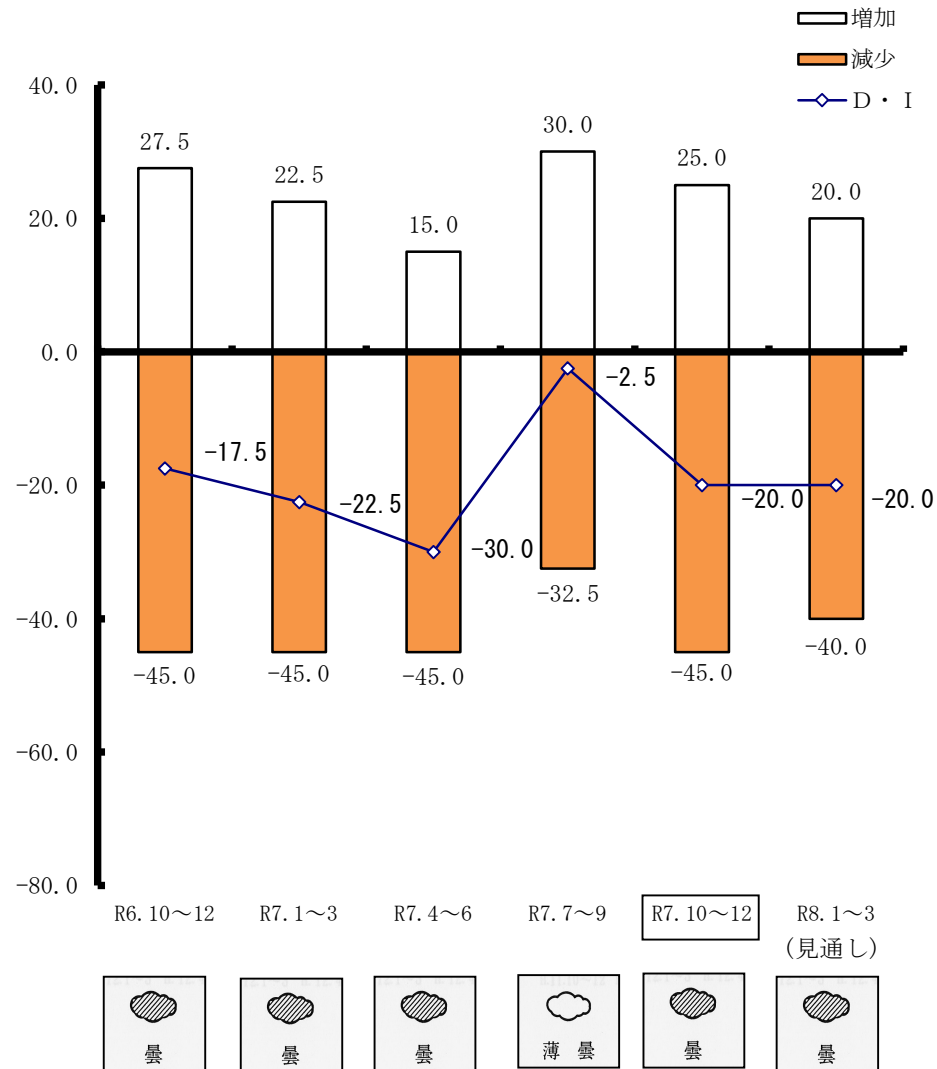
小 売 業 の 推 移

売 上 高



今期は、売上高増加企業の割合が5.0ポイント減少し、売上高減少企業の割合が12.5ポイント増加したことにより、売上高D・Iは17.5ポイントの大幅な低下となり△20.0まで低下しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期に引き続いて減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合も同程度減少することから、売上高D・Iは横ばいとなる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

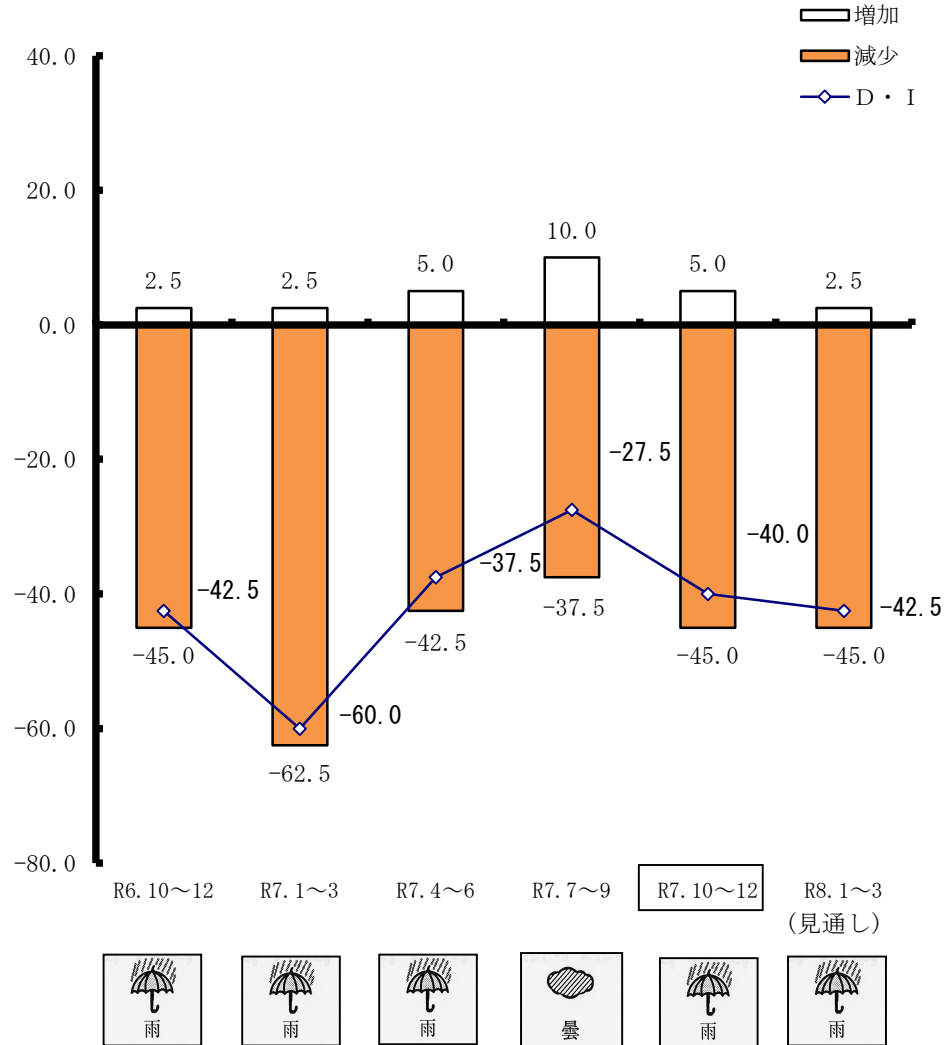
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、5.0ポイント減少し、採算が悪化した企業割合が7.5ポイント増加したことから、採算D・Iは12.5ポイント減少して△40.0まで悪化しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期に引続き減少し、採算の悪化を予想する企業割合が今期と横ばいとなることから、採算D・Iは今期に引続き悪化し、引続き低いレベルで低迷する見通しです。

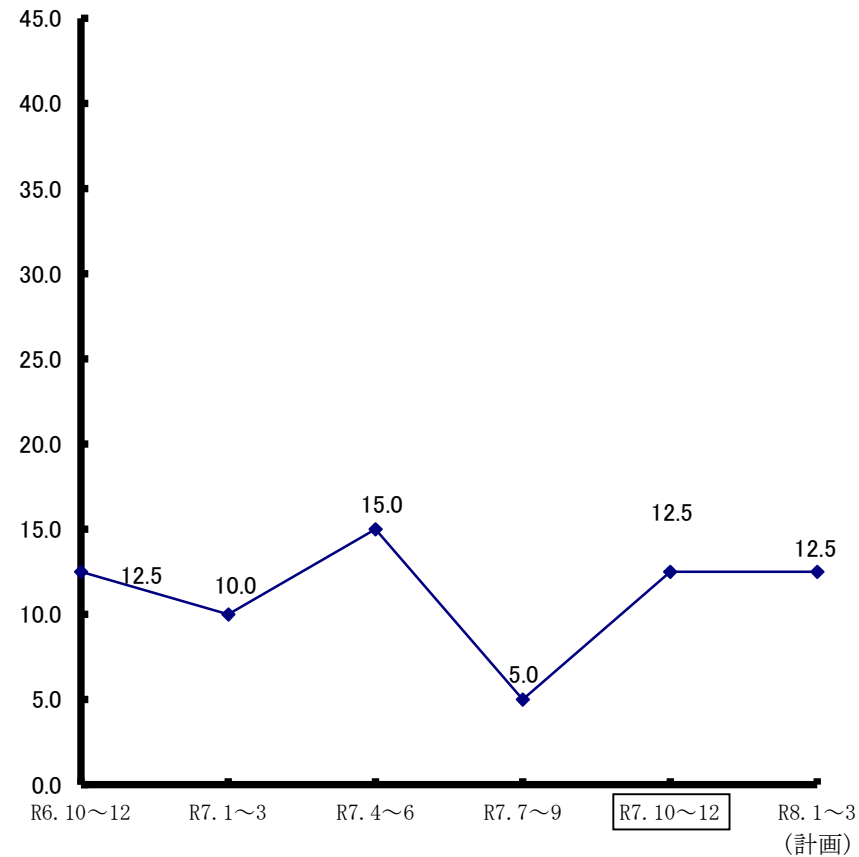


小売業の推移

設備投資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より7.5ポイント増加して12.5まで上昇しました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は今期と同じレベルにとどまる見通しです。



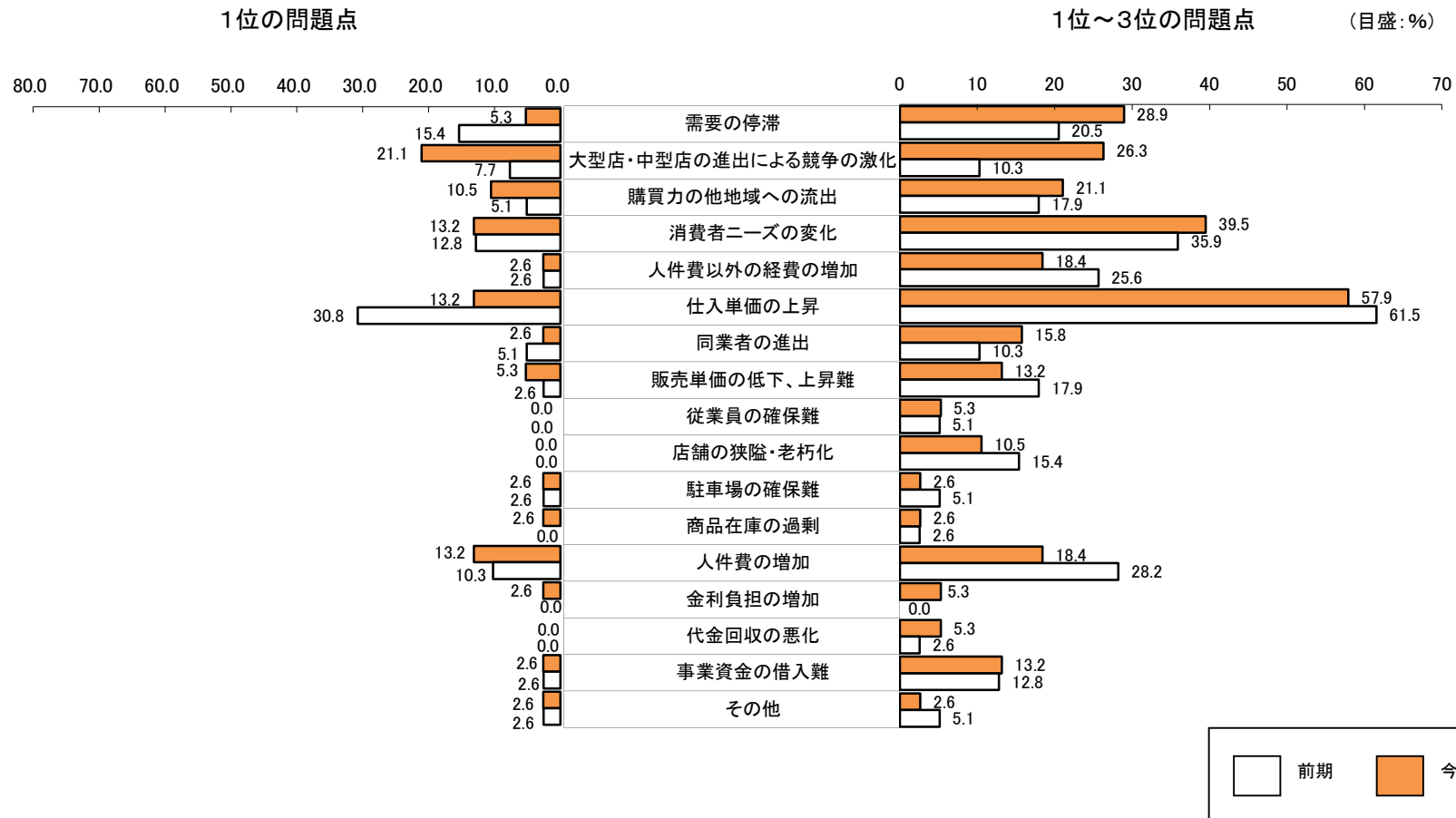
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

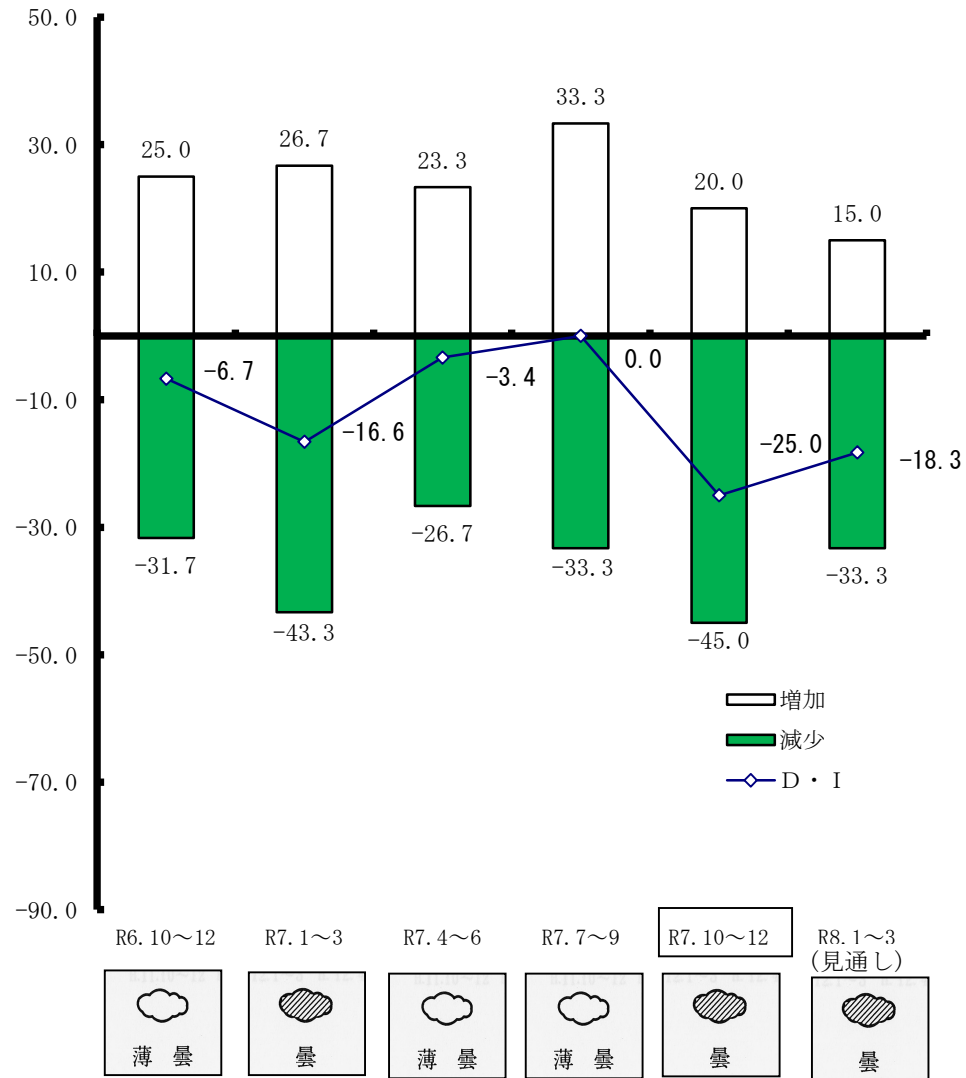
<今 期>

<来期見通し>



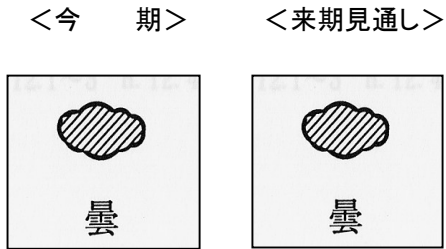
今期は売上高増加企業の割合が13.3ポイント減少し、売上高減少企業の割合が11.7ポイント増加したことにより、売上高D・Iは25.0ポイントの大幅な低下となり△25.0までマイナス幅を拡大しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少する一方、売上高減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは改善に転じることが予想されています。



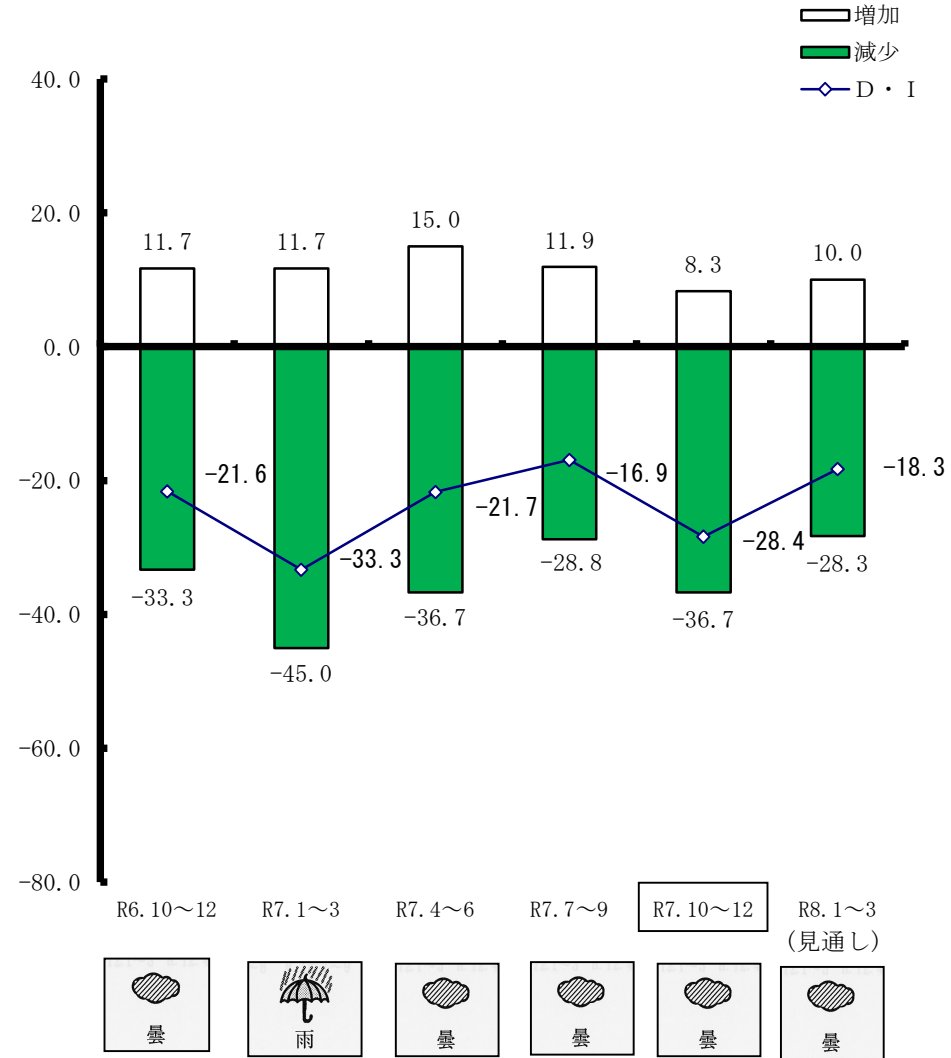
サービス業の推移

採算



今期は、採算が改善した企業割合が3.6ポイント減少し、採算が悪化した企業割合が7.9ポイント増加したことにより採算D・Iは低下し、△28.4まで悪化しました。

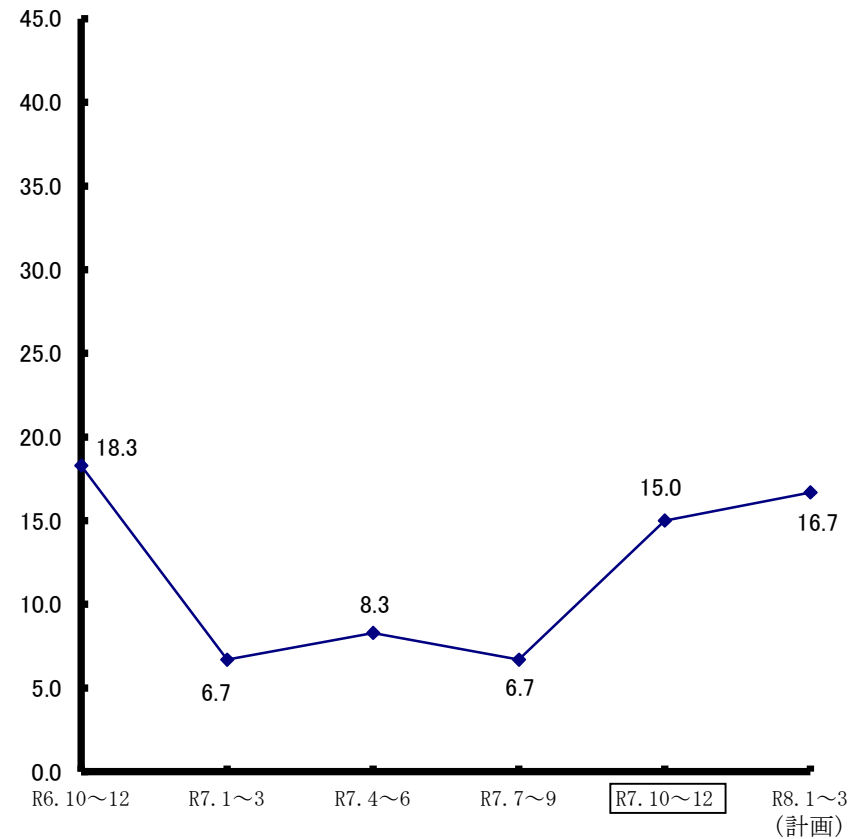
来期は、採算の改善を予想する企業割合が僅かながら増加し、採算の悪化を予想する企業割合も減少することから、採算D・Iは10.1ポイント程度上昇することが見込まれています。



設備投資

前期僅かながら減少に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は今期は増加に転じ、8.3ポイント増加して15.0まで上昇しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期に引続き増加することが見込まれ、16.7程度まで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

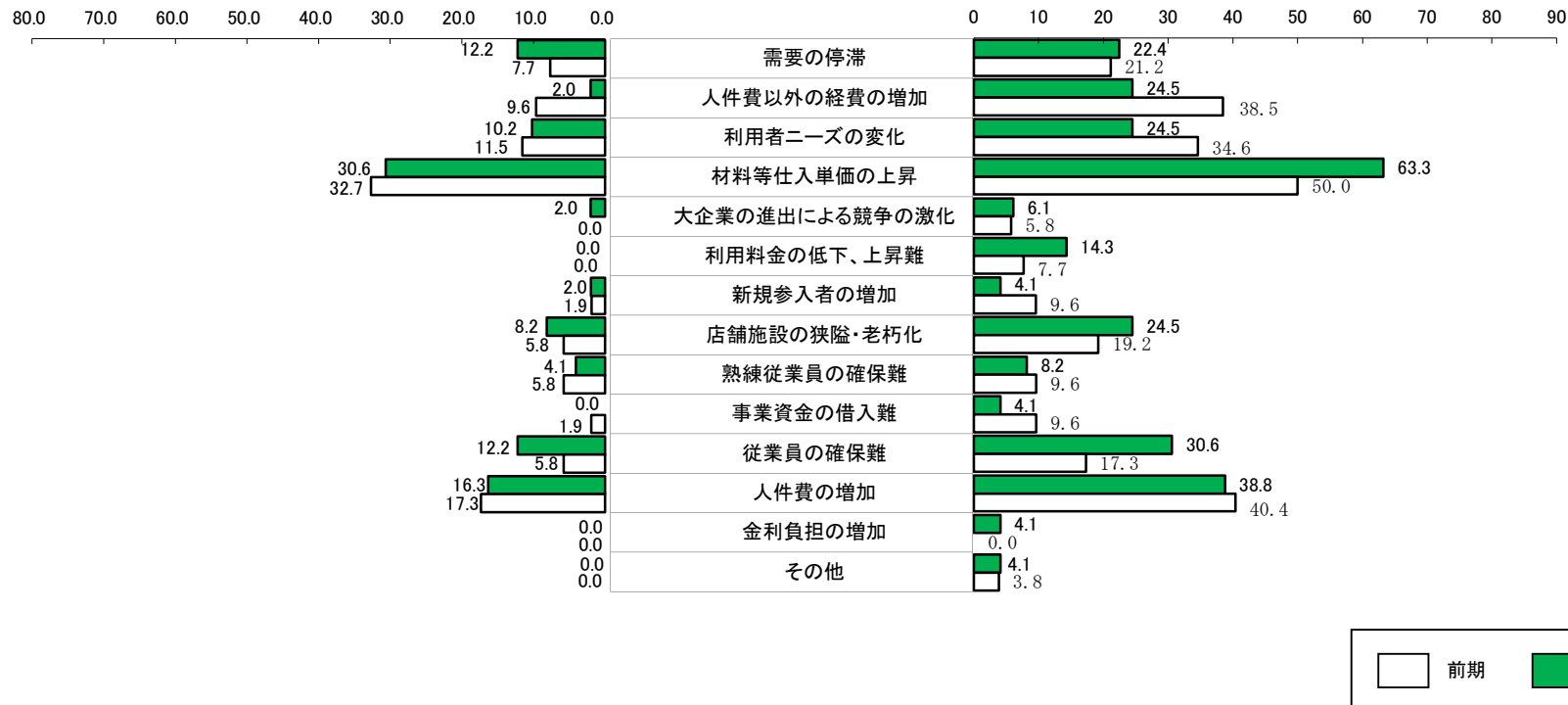
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

1位の問題点

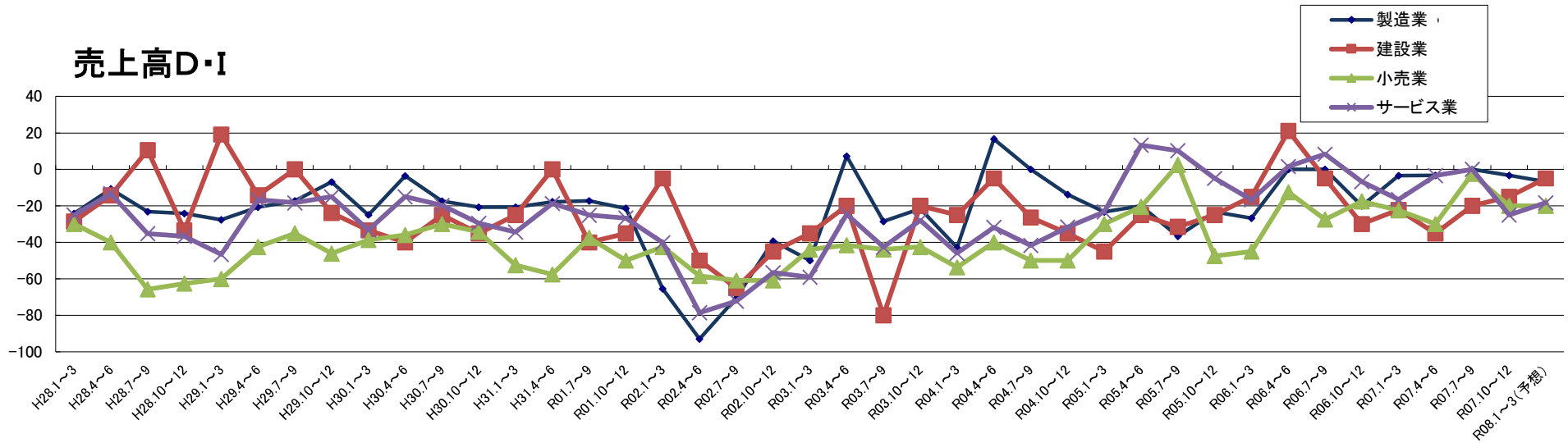
1位~3位の問題点

(目盛:%)

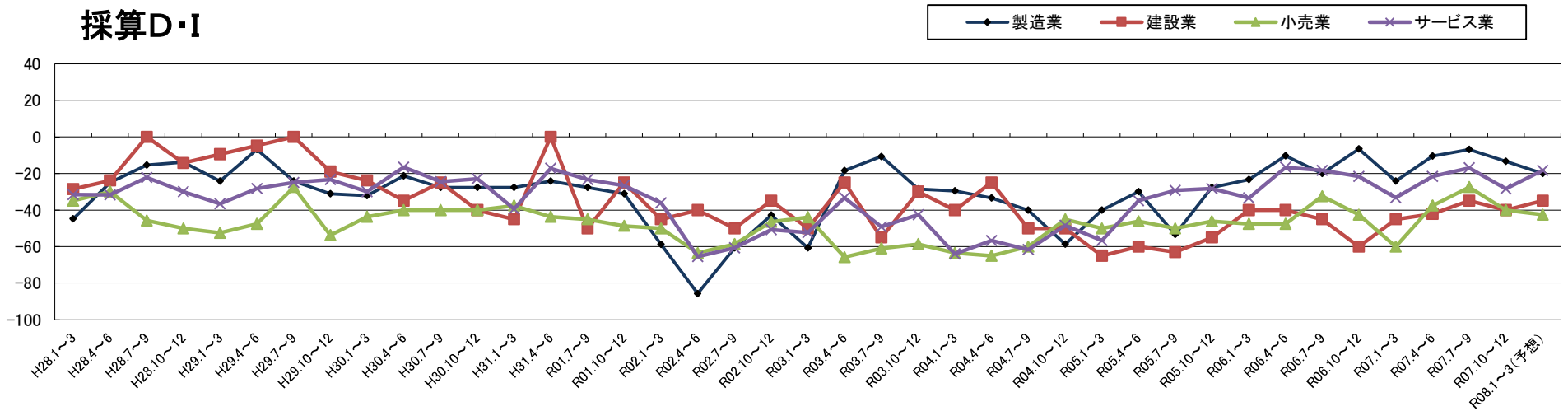


全産業の過去データの推移(過去10年間)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、八幡平市、滝沢市、矢巾町、前沢
(商工会名) 金ヶ崎町、大槌、山田町、野田村、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和7年10月～12月を対象とし、調査時点は令和7年11月15日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建設業		20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業		40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業		60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。